

わたしたちの暮らしのなかにある伝統的民家のカ・タ・チ —ひととはく周辺の田園景観と農家の調査から—

山崎敏昭
(ひととはく地域研究員)

1. 兵庫の伝統的民家

日本でも最古とされる古民家が箱木家住宅(箱木千年家・神戸市北区)と古井家住宅(古井千年家・姫路市)の2棟が現存している兵庫県。この箱木千年家のある地域に連なる神戸市西区から北区、三木市、三田市、宝塚市北部、川西市北部、猪名川町、篠山市、丹波市にかけての地域は、県下でも特に多くの茅葺民家が集中している「茅葺民家ベルト地域」である。神戸市北区・西区では1200棟近くあり、三田市域でも約550棟が今もなお現役の住居としてあり、隣接の三木市やほかの市や町も含めると全体では数千棟の規模になることが予想される(この数には鋼板覆い建物も含む)。こうした状況は全国的にも稀なことであり、これまで顧みられることは少なかったが貴重な地域資源であると言える。

これらの茅葺の伝統民家は、数棟の文化財指定を受け資料館等として活用されているものを除いて、その大部分は現役の住居として現在も人々の暮らしのなかにある。決して過去の物とはなっていないのである。また、近代以降の住宅にもそうした地域の伝統的茅葺民家の姿は受け継がれている。

今回は、わたしたちの暮らしの中にある伝統的民家の間取りを紹介し、今一度、私たちの住まいに息づく伝統文化の形について考えてみたいと思います。

2. 近畿の民家の諸型式

近畿地方の西部にある兵庫県域の伝統的な民家型式は、四間取型、摂丹型、播磨四間取型、中国地方と共通の間取り要素のある広間型の4つの型式がある。伝統的民家は、林野全孝氏(京都府立大学名誉教授)氏が調査された1980年代以降、最近まで数多くが継承されていたが、近年は急速に失われている(参考:林野全孝1980『近畿の民家』)。

・兵庫の古民家の間取(まどり)と分布している地域

ひろまがた

広間型 (居間を土間に向かって大きくとる。但馬地区、西～中播磨地区、丹波地区北部、まれにそのほかの播磨地区・阪神地区の北部)

はりまよつまどりがた

播磨四間取型 (播磨地区にみられる“田の字”型平面の民家。座敷をつなぎ10間取以上になる例も。播磨地区のほぼ全域)

よつまどりがた

四間取型 (いわゆる“田の字”型平面の民家。阪神地区の南部から大阪府・京都府・奈良県等の近畿地方中央部)

せったんがた

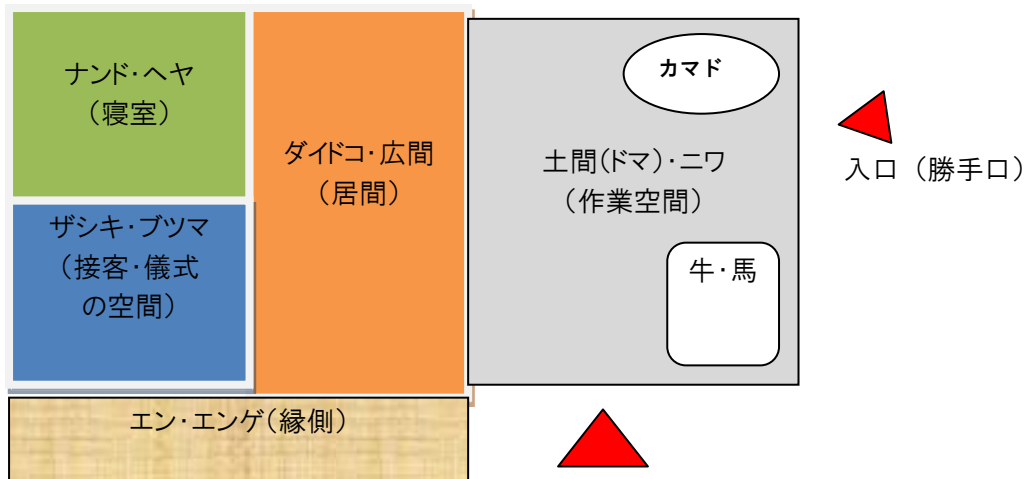
摂丹型 (家の妻側から入る片土間型式の民家。阪神地区北部(かつては阪神地区のほぼ全域)、丹波地区、大阪府能勢～高槻市北部、京都府丹波地域、山城(京都市中京区・右京区・西区、長岡京市、向日市等))

せんねんや まどり

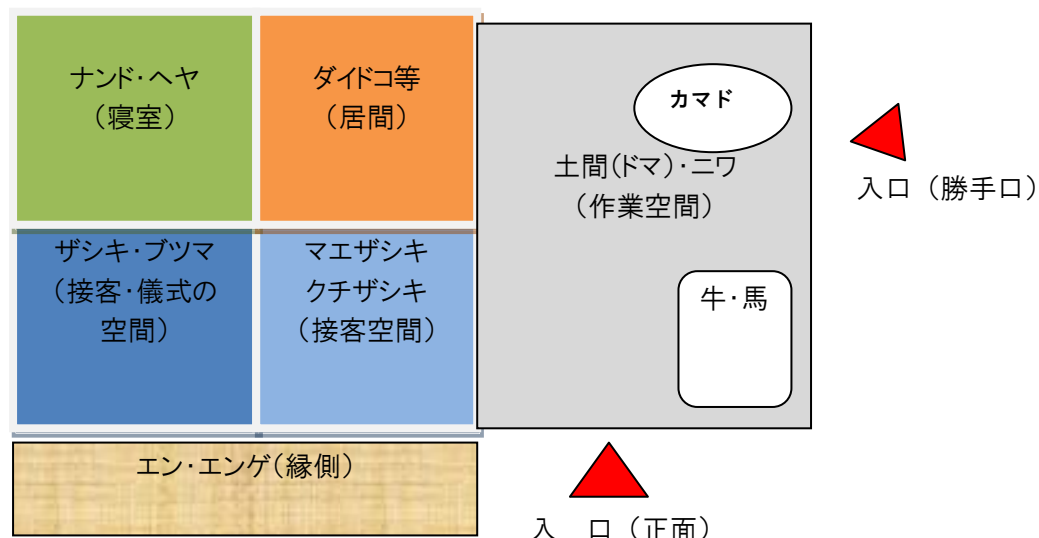
千年家の間取 (日本最古の民家に見られる間取。表(おもて)に座敷。背後に居室と寢室。いわゆる表座敷の三間取。箱木家住宅(箱木の千年家・神戸市北区)、旧古井家住宅(古井の千年家・姫路市)が代表例)



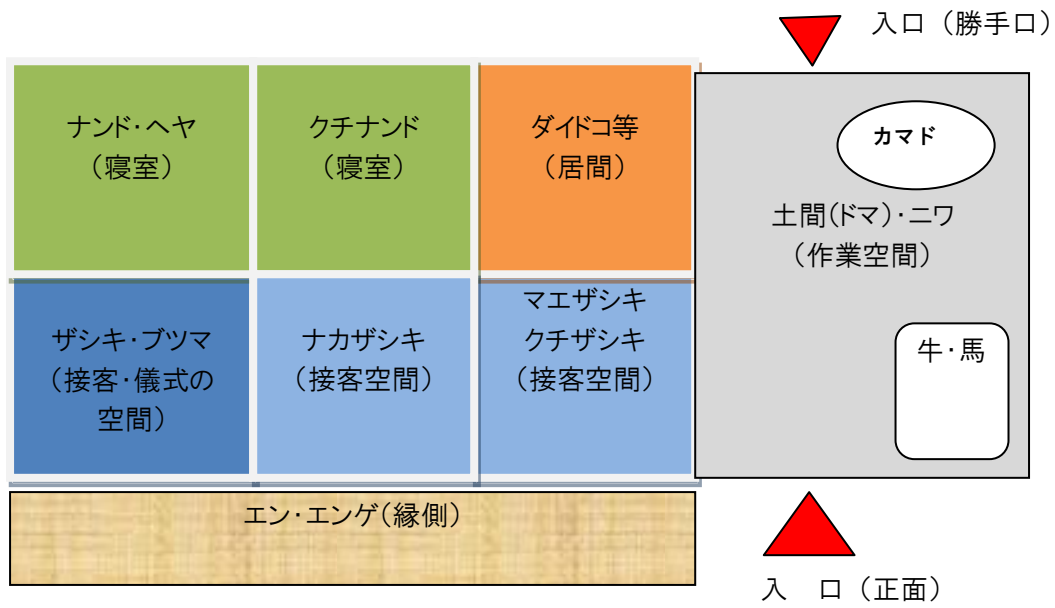
平入り形式の民家と妻入り形式(右端)の民家(三田市役所『三田の茅葺民家』2009より)



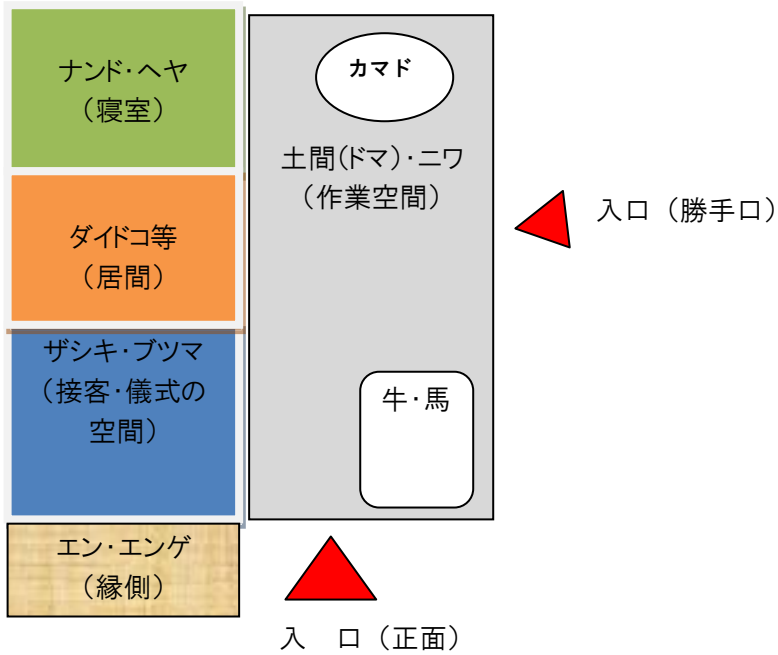
広間型民家の間取り



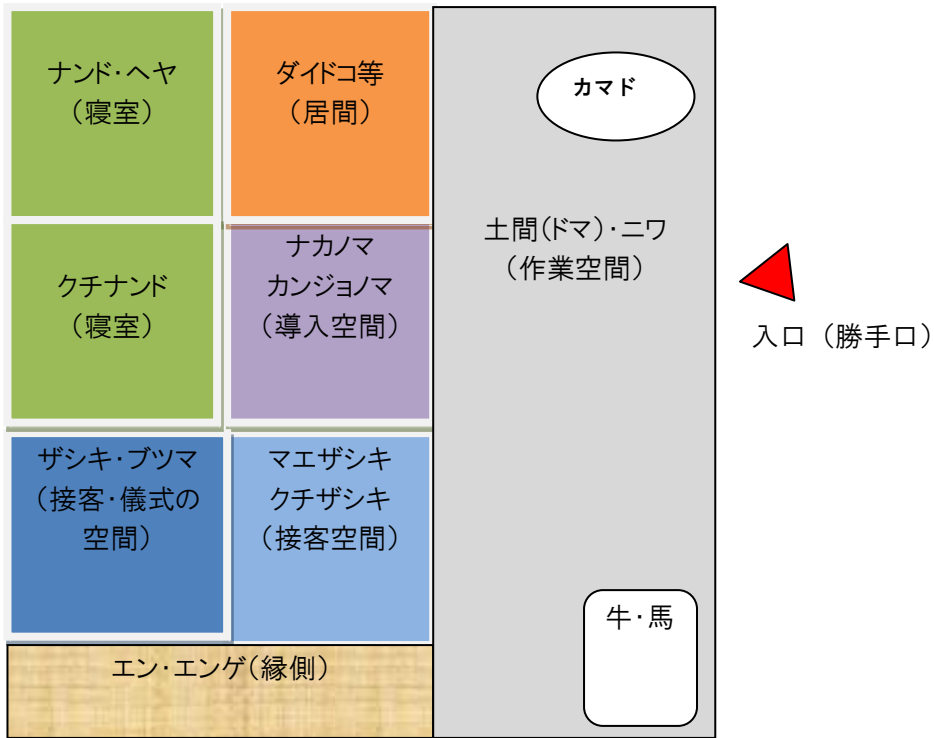
四型間取型民家の間取り



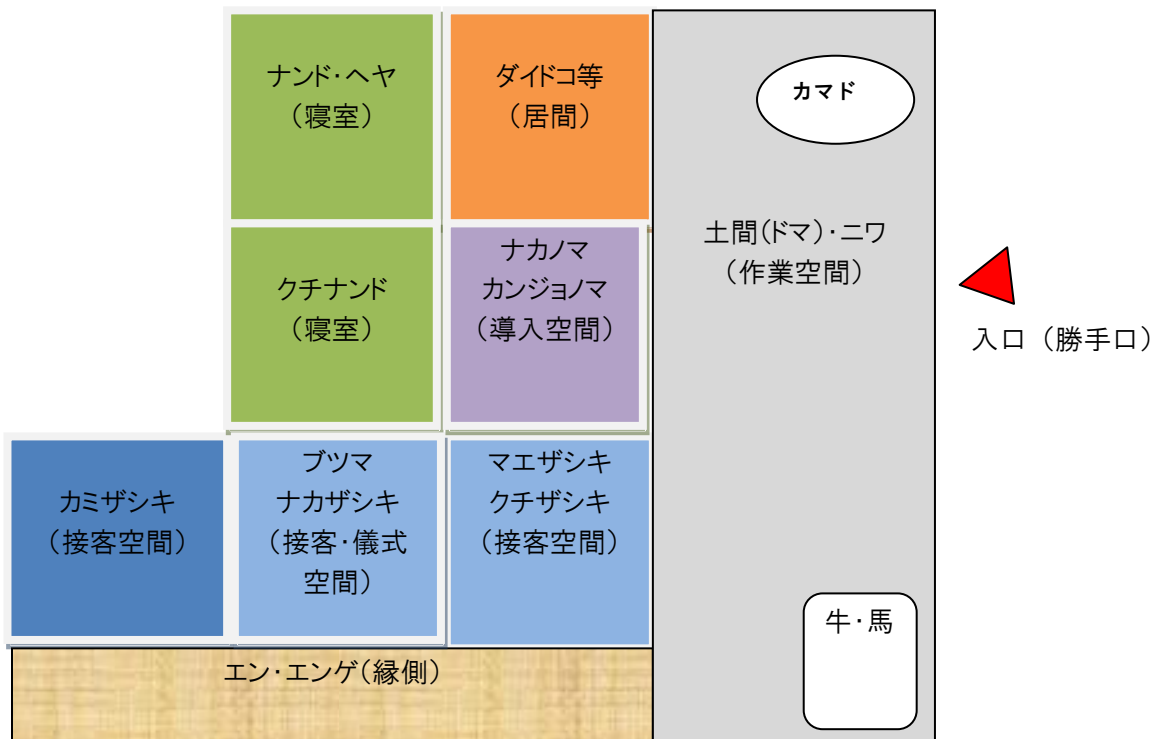
播磨四型間取型民家の間取り (発展形態)



摂丹型民家の間取り (初源形態/江戸時代初期～)

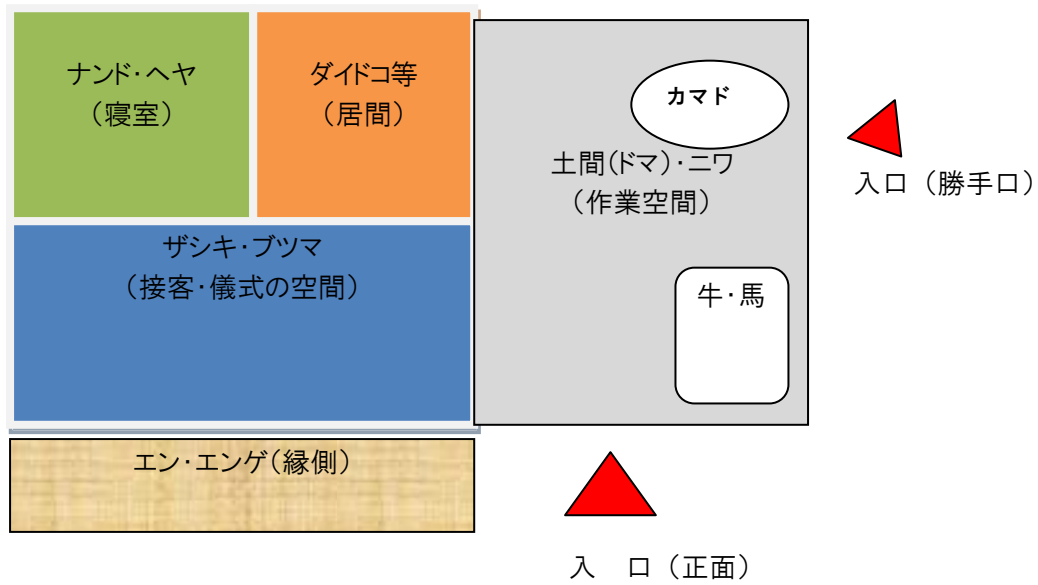


攝丹型民家の間取り (発展形/江戸時代後期～現代)

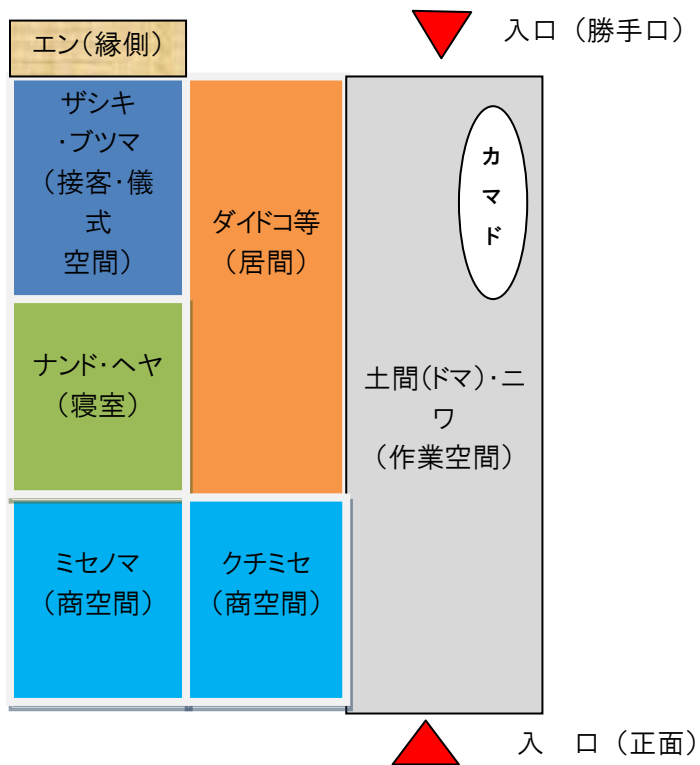


攝丹型民家の間取り (発展形/江戸時代前期～)

※ツノヤ (張出し座敷) 形式



千年家の間取り



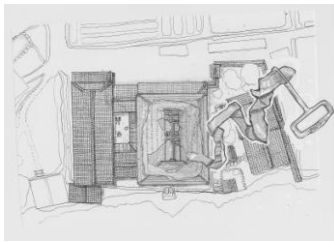
【参考】城下町や宿場の町家の間取り

3. 暮らしのなかにある伝統的民家のかたち

民家の調査データや、自身で実測した図面を時代順にならべ型式変化をとらえ、民家型式の特徴やダイナミズムを考える作業を“編年作業”という。この作業は、研究のまとめとして行うが、何度も試案（仮説）を立てて、実物（現存遺構）や新たな調査資料と照合・検討してより確かなもの（蓋然性が高い仮説）へと組み立てて行く。

兵庫県域にみられる伝統的民家の平面形式をみると、民家の各部屋と施設である、エンゲ（縁）、ザシキ（座敷）、ダイドコ（居室）、ナンド・ヘヤ（寝室）の基本の各室の配置が地域の各地で少しずつ異なることがわかる。大きくは接客空間である座敷を重視するつくりか、居室を重視するつくりか、微妙な違いが見られる。

このような民家の平面形式には、地域の人々の暮らしの文化があらわされている。現代住宅にはデザイン的な要素も多く取り入れられているが、よく観察すると、現代の私たちの住居にも引き継がれていることもわかる。



「民家の缶詰・・・鋼板を外してみれば・・・」（作画：山崎）